

- 実施主体 阿蘇草原再生シール生産者の会
- 実施場所 阿蘇郡市内（各牧野、生産者会員の農地）、熊本市
- 実施期間 平成27年4月～平成28年3月



◇背景・ねらい

当会には、阿蘇の草原の野草を堆肥等に利用し農産品等を生産する農家等が集まっている。会員が生産する農産品等に「阿蘇草原再生シール」を貼付することによりブランド化し、農産品等の付加価値を高めることにより流通を促進させ、草原環境の保全及び再生を図ることを目的としている。

野草を利用することが草原再生に繋がることを念頭に、今年度においても多くの野草を利用し農産品の生産に努めると共に、その農産品にシールを貼付し販売することにより消費者に対して草原を守ることの大切さを普及、啓発する。

◆実施概要

①常時販売

- ・四季彩いちのみや、あぜり庵、田園都市空間・阿蘇とれ市場・きよらカフェ、物産館「自然庵」、高森湧水トンネル直売所、阿蘇西ふれあい市場「あかみず」、道の駅「波野」など。

②イベント販売

- ・ヒノマルマルシェ（6/6-6/8）（10/8-10）（11/12-14）、阿蘇マルシェ（7/5）（9/6）（11/1）、阿蘇マルシェヒノマルマルシェ（9/25-9/27）、瀬の本マラソン（8/23）、「然」晩餐会への食材提供（阿蘇市）（11/17）、観光・物産発信展（12/17.18）

③産地直送販売：阿蘇GSコーポレーションギフト

中元セット 19件 お歳暮セット 13件

④賛助会員への野菜セット送付（7セット）

⑤草原環境調査（8/19） ⑥草刈り（11/28）、草集め・裁断（12/9）

⑦生産者の会の活動拡大

情報発信：ホームページ随時更新 会員拡大：新規会員2名

⑧会議 7回（内1回総会）

⑨阿蘇草原再生協議会へ委員として参加：4回

◆実施体制

- ・生産者会員20名：生産・販売・イベント企画・活動PR
- ・植生調査は西日本農業研究センター高橋先生グループの協力を得て実施。

◆成 果

- ・野焼き支援ボランティアの協力を得て、約2.5haの野草地で採草を行い、堆肥に利用。その他にも、会員それぞれが管理する場所で5haの採草を行い、野草堆肥として利用している。
- ・阿蘇地域で長年にわたり利用されてきた野草堆肥が、阿蘇の草原保全に大きく貢献してきた歴史があり、科学的研究によりその有用性が再評価された。野草堆肥には拮抗菌と呼ばれる善玉菌が、1mgあたり数千万個という高密度で存在し、作物の病気を抑え、肥えた土壌を作る効果があるとの研究成果が発表され、会活動の普及の追い風となっている。

◆実施者の感想

高齢化や農家の人員不足により、野菜の生産量や種類が減ってきている。会員を増やし、受注への対応力を強化していきたい。野草堆肥の有効性が新聞でも取り上げられ、認知度が高まりつつある。会の活動を通じて野草の循環利用を、今後ますます広めていきたい。



販売会の様子



野菜セットの中身



採草の様子